

# チェルノブイリ事故放射能汚染医療支援

## 東ヨーロッパ

### ベラルーシ

#### チェルノブイリ被災地域の医療支援活動

**概要：**チェルノブイリ原発事故は、被曝から 30 年以上経過した今もベラルーシの人々の健康に悪影響を及ぼし、特に食習慣による二次被曝で体の発達が未熟な青少年への健康被害が強く懸念されている。

1995 年にゴメリ州のゴメリ小児専門病院から依頼を受けた物資や医療器具の支援を開始して以来、被災者のための支援活動を継続している。

2006 年より現地青年ボランティア団体「アルテラ」に被災者支援プログラムの活動費を支援。

2007 年に放射能防護研究所「ベルラド」を訪問。この研究所は、定期的に汚染地域付近の子供達の体内放射能を測定し、その数値を下げる効果が期待できる健康食品「ビタペクト」を開発。体内に蓄積された放射能が危険なレベルを超える子供達に投与する活動を地道に実施。病気を未然に防ぐために一人でも多くの子供達を助けたいという趣旨に共感し、2008 年に WFWP 日本による「ビタペクト」配布支援活動を開始。



医療物資寄贈

2010 年に「ベルラド」と協力して、汚染地域に近い小中一貫校にて、「健康指導センター」を設置。採取した食品中の放射能量を子供達に調べさせて、放射能の脅威に気づかせ、どう防いでいくのか健康への意識を啓蒙している。

進展状況	2017 年	2018 年
ゴメリ州立小児専門病院への医療物資支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>心電図の記録デバイス用ケーブル</li> <li>6 チャンネル心電計</li> <li>口を拡張するエキスパンダー</li> <li>楕円生検鉗子</li> <li>熱表示板</li> <li>カテーテル固定用の石膏フィルム包帯</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手術器具を洗浄するための特殊溶剤レジンバック E-315 3 個</li> <li>多目的コンピュータコンプレックス電極ヘルメット 3 種</li> <li>リハビリ用マッサージチェア 1 台</li> </ul>
「ビタペクト 3」投与支援金	40 人分を寄付	11 人分を寄付
健康指導センター	ベルラドからゴメリ州ルチトシ地域のギムナジウムを推薦され視察し、活動の継続費用を支援した。	ゴメリ州チェチェルスク第 2 学校を視察。

## ウクライナ

#### ウクライナ・チェルノブイリ被曝児のための医療支援

**概要：**1999 年 11 月より、キエフ市を中心として、多くの小児病院、孤児院などに医療器具、医薬品、治療費などの支援をしてきた。2010 年よりチェルノブイリ原発事故の被害者団体「チェルノブイリ・ソユーズ」の要請による支援を行っている。



(2017) エリザベータ・シュルツちゃん (10 歳) 被曝 2 世  
 母親は、チェルノブイリで生まれ育ち、1 歳の時に被曝。  
 病名：先天性奇形脊椎ヘルニア。仙骨脊髄麻痺。骨盤機能不全。神経因性膀胱（膀胱の神経機能障害）  
 リザちゃん一人でトイレに行けず、カテーテルとおむつを使用。2011 年に膀胱の移植手術をしたが、うまく神経が繋がらず、再手術が必要。現在、成長期のため手術ができず、2018 年 4 月超音波検査費用を支援し、様子を見ることとなった。



(2018) ジャスティナ・ザモイシカちゃん (12 歳) 被曝 2 世  
 母親の妊娠中に、先天性水頭症とわかり、帝王切開で生まれたが、歩行機能に関係する脳の部分が冒されていたため、8 歳まで歩くことができなかった。  
 その後、手術とリハビリによって、つかまりながら歩けるようになった。これから集中リハビリをすることによって、ひとりで歩けるようになる可能性があるため、リハビリ治療の費用を支援。

## 中南米

### アルゼンチン

**概要：**2013年3月に開始した青少年健全育成教育、情操教育を行ってきた大学、公共施設で、継続してエイズ予防教育、人格教育を行なうようになり、2016年よりツクマン州、ブエノスアイレス市・州の地域と学校を中心にエイズ予防・人格教育のみを推進していくことになった。

教材は「エイズ時代に生きる」のスペイン語版と自己抑制講義「アモール・ブーロ」のテキストを使用。



サン・ミゲル・デ・ツクマン市 No.5 技術学校にて授業

実施状況	実施場所	参加者	参加人数
2017	ツクマン（技術学校・国立技術大学・政府機関・ホテル）、サルタ、フバイ（技術学校）、ブエノスアイレス	教師・学生・父兄・学校関係者・有識者・政府機関関係者	657
2018	フバイ、ツクマン、コリエンテス、バンダリオサリ、サルタ、リドロ（キンテロス学校）	友人・知人・学生・VIP/NGO リーダー・州議員・	750

### ベリーズ

**概要：**ベリーズでは、13歳の80%がすでに性交渉を行っているという統計があることから、早期のエイズ予防教育が必要と考え、WFPでは、2013年よりエイズ予防教育を実施している。国が行っているコンドーム教育は対処法にしかならず、専門的な知識を教えるエイズ予防教育が必要とされている。

アメリカから講師を招き、「クリーン・スレート・プログラム」の教材を使用し、小学校や中学校でセミナーを開催している。

小学生には「私の体は大切（My body is precious）」という絵本を使って「良いタッチ」と「悪いタッチ」を具体的な例をあげながら、将来の夢をかなえるためには自分の身体を大切に守らなくてはならないということを教えている。

中学生にはアルコールやドラッグが脳に与える影響やSNSなどの危険性、さらに10代の妊娠がもたらす問題など、映像を使って講義している。

#### 実施状況

##### 【2017】

- 10月、首都ベリーズ・シティの3つの学校において、エイズ予防教育セミナーを実施。206人の小学5年生から中学生までが参加。



セント・ジョン・ヴィアニー・RC・スクールにてセミナー

- E.Pヨーク中学校はベリーズ・シティ市内で最もレベルの高い学校だが、2人の女子生徒が妊娠・出産して復学していた。

##### 【2018】

- 10月10日、ベリーズ・シティのサミュエル・ヘインズ・インスティテュート・オブ・エクセレンス学校にて、ドミニカ共和国から講師を招き、75人の小学生を対象にエイズ予防教育と人格教育セミナーを実施。
- 10月12日、ベリーズ・シティのセント・ジョン・ヴィアネイ・RC・スクールにて、4年生86人、5年生65人、6年生84人を対象に、ドミニカ共和国の講師によるエイズ予防教育と人格教育セミナーを実施。

## 東ヨーロッパ

### ベラルーシ

**概要：**近年東欧地域でHIV感染が爆発的に拡大しているため、政府もエイズ対策に力を入れている。HIV感染が拡大している現状を懸念し、チェルノブイリ原発事故による放射能に対する危機感と共に、心身両面の教育の必要性を提案。「エイズ時代に生きる」のロシア語版を使い、エイズ予防教育と自己抑制教育のセミナーを、現地NGOの青年スタッフの協力で実施。

#### 実施状況

##### 【2017】

- 現地スタッフが積極的に学校でのエイズ予防教育を進めており、合計13回で491人の生徒を対象に実施してきた。



チェチェルスク第2学校にてセミナー

- 10月17日、ゴメリのギムナジアにて、約100人対象のセミナーを視察。

##### 【2018】

- 現地スタッフが合計8回で317人を対象に実施。
- 9月24日、ゴメリのチェチェルスク第2学校にて、78人対象のセミナーを視察。